

令和2年（2020年）基準

埼玉県鉱工業指数年報

【令和5年（2023年）】



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」



彩の国
埼玉県

総務部統計課

利用上の注意

1 埼玉県鉱工業指数について

埼玉県鉱工業指数は、県内の生産活動の状況を把握することを目的とし、経済産業省生産動態統計調査及び県独自調査の結果を基に作成しています。

現行の令和2年(2020年)基準では、生産212品目、出荷212品目、在庫115品目、在庫率114品目を採用し、基準年の固定ウェイトで加重平均するラスパイレス算式によって指数を計算しています。また、季節調整については、米国センサス局法のX-12-ARIMAを用いて行っています。

2 基準時

本書に掲載する指数及びウェイトは、ともに令和2年(2020年)を基準としています。

令和2年(2020年)基準による指数値へは、令和5年3月分の公表から切替えを行い、過去系列は、平成30年(2018年)1月以降について新基準による系列を作成しています。

3 用語の表示

「鉱工業生産指数(付加価値額ウェイト)」、「鉱工業生産者出荷指数」、「鉱工業生産者製品在庫指数」、「鉱工業生産者製品在庫率指数」をそれぞれ「生産指数」、「出荷指数」、「在庫指数」、「在庫率指数」と略記しています。

また、四半期別のⅠ期は1～3月期、Ⅱ期は4～6月期、Ⅲ期は7～9月期、Ⅳ期は10～12月期を表しています。

4 数値等の表示方法

- (1) 指数値は、暦年別、四半期別及び月別に算出しています。
- (2) 暦年及び四半期別の生産指数、出荷指数及び在庫率指数は、月別指数の平均値を用いて算出し、在庫指数は当該年末又は期末指数値を用いて算出しています。
- (3) 前年比及び前年同期比は、原指数によって算出し、前期比は季節調整済指数によって算出しています。
- (4) 各数値の掲載単位未満は、すべて四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合があります。

5 符号の用法

- | | | |
|---------|-------|-----------------|
| 「 — 」 | | 該当数値がない又は非公開のもの |
| 「 0.0 」 | | 数値が掲載単位に満たないもの |
| 「 ▲ 」 | | マイナスの数値 |

1 令和5年(2023年)の鉱工業総合指数の動向

<生産>

生産指数は105.9で、対前年比は+0.8%、3年連続の上昇となりました。

<出荷>

出荷指数は106.2で、対前年比は+1.1%、3年連続の上昇となりました。

<在庫>

在庫指数は98.5で、対前年比は+1.7%、2年連続の上昇となりました。

<在庫率>

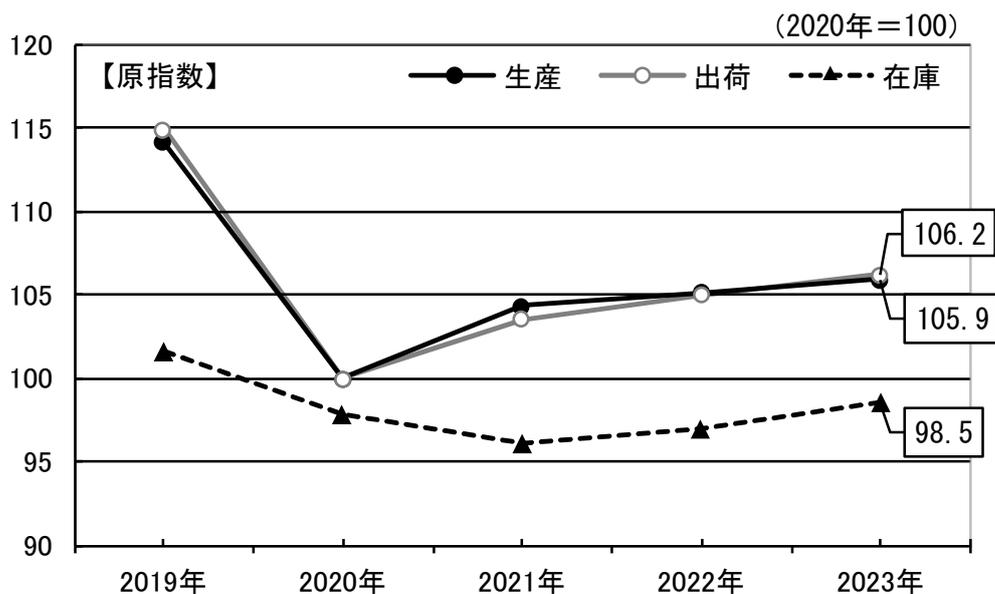
在庫率指数は114.7で、対前年比は+16.1%、2年連続の上昇となりました。

表1-1

		(2020年=100)				原指数
		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
生産	指数	114.1	100.0	104.3	105.1	105.9
	増減率(%)	▲ 5.3	▲ 12.4	4.3	0.8	0.8
出荷	指数	114.9	100.0	103.5	105.0	106.2
	増減率(%)	▲ 5.1	▲ 13.0	3.5	1.4	1.1
在庫	指数	101.6	97.9	96.1	96.9	98.5
	増減率(%)	▲ 0.9	▲ 3.6	▲ 1.8	0.8	1.7
在庫率	指数	93.2	100.0	93.5	98.8	114.7
	増減率(%)	0.4	7.3	▲ 6.5	5.7	16.1

※ 年別は原指数による。増減率は対前年比。

図1-1



2 鉱工業総合指数の四半期別の動向

<生産>

第1四半期は低下、第2四半期及び第3四半期は上昇、第4四半期は低下となっています。

<出荷>

第1四半期及び第2四半期は上昇、第3四半期及び第4四半期は低下となっています。

<在庫>

第1四半期及び第2四半期は上昇、第3四半期及び第4四半期は低下となっています。

<在庫率>

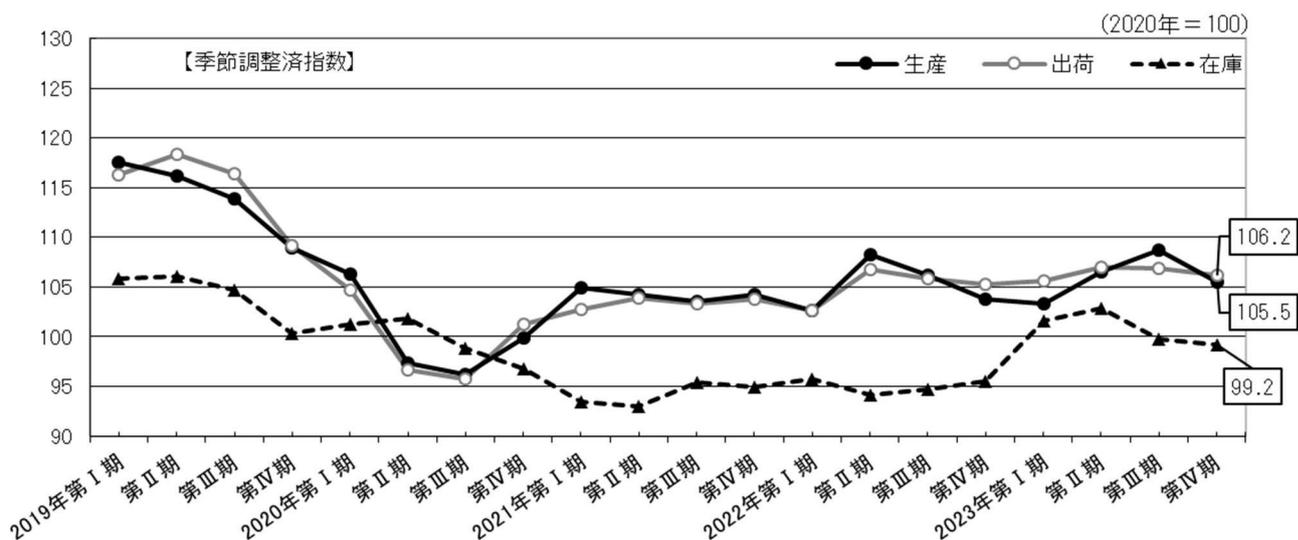
第1四半期及び第2四半期は上昇、第3四半期は低下、第4四半期は上昇となっています。

表1-2

		(2020年=100) 季節調整済指数			
		2023年			
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
生産	指数	103.3	106.5	108.7	105.5
	増減率(%)	▲0.5	3.1	2.1	▲2.9
出荷	指数	105.6	107.0	106.9	106.2
	増減率(%)	0.3	1.3	▲0.1	▲0.7
在庫	指数	101.6	102.9	99.8	99.2
	増減率(%)	6.4	1.3	▲3.0	▲0.6
在庫率	指数	108.2	115.9	113.8	120.7
	増減率(%)	4.0	7.1	▲1.8	6.1

※増減率は対前期比。

図1-2



3 上昇・低下に寄与した主な業種・品目

<生産>

輸送機械工業、業務用機械工業など8業種が上昇し、一方で、汎用機械工業、電子部品・デバイス工業など15業種が低下しました。

<出荷>

輸送機械工業、化学工業など7業種が上昇し、一方で、汎用機械工業、電気機械工業など16業種が低下しました。

<在庫>

生産用機械工業、輸送機械工業など11業種が上昇し、一方で、電子部品・デバイス工業、非鉄金属工業など10業種が低下しました。

表1-3

(1) 生産 (2020年=100) 原指数

		業種	2022年	2023年	増減率(%)	品目
上昇	8業種	輸送機械工業	93.4	126.8	35.8	航空機用部品、乗用車、懸架制動装置部品
		業務用機械工業	119.7	137.0	14.5	スロットマシン、パチンコ、精密測定機
		プラスチック製品工業	111.0	116.4	4.9	プラスチック製容器、プラスチック製機械器具部品、プラスチック製建材
低下	15業種	汎用機械工業	136.5	125.5	▲8.1	空気圧機器、コンベヤ、汎用内燃機関
		電子部品・デバイス工業	98.6	75.0	▲23.9	混成集積回路、電子回路基板、粉末冶金製磁性材料
		印刷業	91.1	83.1	▲8.8	平版印刷(オフセット印刷)、おう版印刷(グラビア印刷)、とつ版印刷(活版印刷)

(2) 出荷

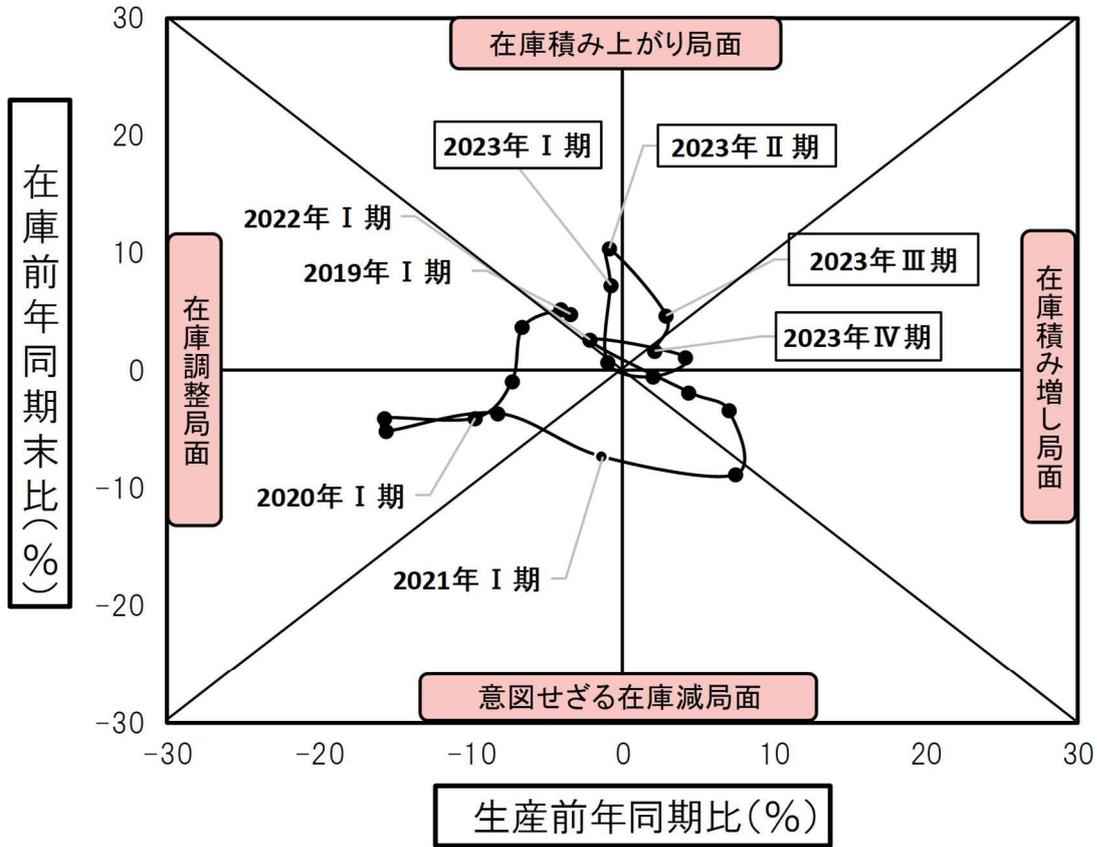
		業種	2022年	2023年	増減率(%)	品目
上昇	7業種	輸送機械工業	88.7	108.1	21.9	乗用車、航空機用部品、けん引車
		化学工業	110.0	116.7	6.1	医薬品、化粧品
		業務用機械工業	122.5	143.7	17.3	スロットマシン、パチンコ、精密測定機
低下	16業種	汎用機械工業	140.2	128.9	▲8.1	空気圧機器、一般用バルブ・コック、コンベヤ
		電気機械工業	123.8	106.2	▲14.2	サーボモータ、低圧開閉スイッチ、電力変換装置
		電子部品・デバイス工業	97.4	74.5	▲23.5	混成集積回路、電子回路基板、サーミスタ

(3) 在庫

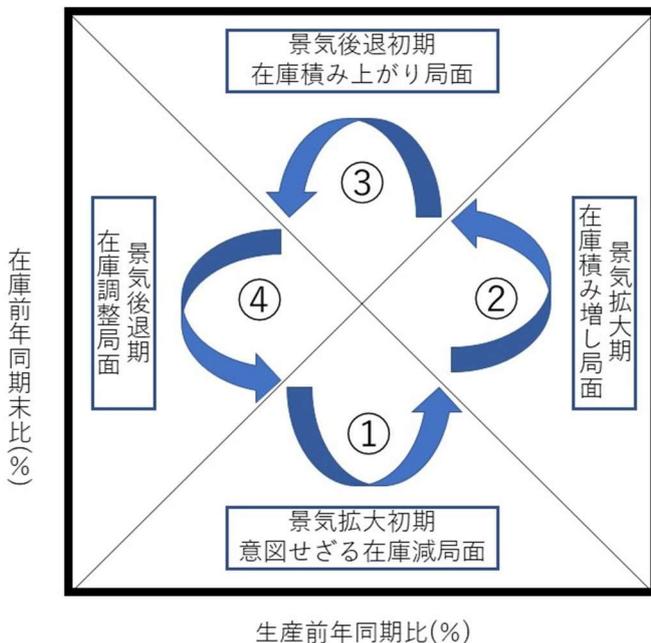
		業種	2022年	2023年	増減率(%)	品目
上昇	11業種	生産用機械工業	74.7	95.0	27.2	整地機械、食料品加工機械、研削盤
		輸送機械工業	70.7	107.8	52.5	乗用車、完成自転車、けん引車
		プラスチック製品工業	100.4	105.6	5.2	プラスチック製容器、プラスチック製機械器具部品、プラスチック製フィルム
低下	10業種	電子部品・デバイス工業	103.7	74.0	▲28.6	混成集積回路、整流素子、シリコンダイオード
		非鉄金属工業	103.9	86.4	▲16.8	伸銅製品、アルミニウム圧延製品、アルミニウム二次合金地金
		バルブ・紙・紙加工品工業	122.3	104.0	▲15.0	段ボール原紙、衛生用紙、段ボールシート

4 在庫循環図

令和5年(2023年)第1四半期から2023年第4四半期にかけては、通常の在庫循環の軌道(反時計回り)とは逆回りし、在庫の積み上がり局面(景気後退初期)から、在庫積み増し局面(景気拡大期)へと移行しました。



(在庫循環図について)



(参考)

在庫循環図は、企業の生産と在庫の関係を示しています。在庫の変動は生産活動に大きな影響を与えるため、この図は景気の局面を判断する際に有効とされています。

一般的に、次の4つの局面を循環していくことになります。

- ①景気拡張期に入り、増産しても需要に追いつかず一時的に在庫が減少する局面
- ②景気拡張期が長くなり、需要増に備えて増産し、在庫を積極的に積み上げる局面
- ③景気後退期に入り、需要の減少速度に減産が追いつかず在庫が積み上がる局面
- ④景気後退期が続き、更に減産が進み、積み上がった在庫を減少させる局面

(このページは空白ページです)

この情報は、こちらのインターネットでご覧になれます。



<https://www.pref.saitama.lg.jp/theme/tokei/index.html>

令和6年7月発行（令和7年3月更新）

埼玉県総務部統計課 経済分析担当

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂三丁目15番1号

TEL 048-830-2327（直通） FAX 048-822-3758